

# 劍聖 飯篠長威齊家直公

## 大竹利典

(天真正伝香取神道流師範)  
(銃砲刀劍類登録審査委員)

であります。

日本武道の源流「天真正伝香取神道流」は飯篠伊賀守家直公を流祖として下総の国、香取の地に伝承する武道であります。

家直公は元中四年（一三八七年）に下総の国飯篠村（今の香取郡多古町）の郷士の家に生まれ、幼少の頃より刀槍の術にすぐれ、主家の千葉家においても武勇の誉れ高くその名声は四隣にとどろいていました。

ある時本朝武勇の祖神であります香取神宮下の御神井にて従者が馬を洗ったところ、途端に馬が苦しみましたし、不思議にもたちまちにして死んでしまいました。家直公は経津主大神（香取神宮御祭神）の深遠なる御神威に恐れ、何か心に悟るものがありました。それより一族郎党の者を解雇し、香取神宮へ一千石、大槻宮本村に新福寺を建立し寺館として一千石を取め、香取神宮奥の宮に程近い梅木山に隠棲し、香取の神に志千日の大願を起てたの

り、松本備前守政信、諸岡一羽齋等を初め秀吉の軍師として有名な竹中半兵衛重治があり、奥州仙台公家臣片倉小十郎村典、黒沢源七郎、幕府旗本には中台信太郎、松本直一郎、伊庭軍兵衛、又諸藩の代々指南家等枚挙にいとまがありません。

なお当流には劍術、居合術、棒、槍、薙刀、手裏劍、柔、忍術戦術、築城法等天地理風水陰陽気学に至る総合された軍学兵法があり、従って日本武道の長上に位しております。不動智神妙劍ツバメ返し等の極秘剣もあり、今でも入門の際に血判を押す厳しい方法で当時のものをそのまま今日まで保存し、約六百年の永きにわたって伝えられてきたのであります。神道流兵法は、昭和三十五年、日本武道では最初の無形文化財として指定されております。

### 流祖のおしえ

家直公の歿せられたのは長享二年四月十五日（一四八八）実に百二歳の高齡であります。

法号 泰厳院殿平朝臣来翁道本大居士  
配 光岳院殿妙室清鏡大姉

家直公は長享元年四月故郷飯篠村に帰り、同年八月如意山地福寺を創建しております。

（香取郡史千葉県史）如意山地福寺は多古町

飯笹山城守長盛翁



飯笹の山高  
い山腹にあ  
つて本尊に  
地蔵菩薩を  
祭り、地元  
の人々の厚  
い信仰をう  
けており、

現在篠塚照憲住職（第三十九世）が先代清憲師の亡き後真言密教智山派を継いでいます。家直公の生家はこの山のすぐ麓にあつて静かなたたずまいをみせています。

町史によれば、当初屋号を飯篠村宇平衛と称し、後に金兵衛と改めています。現在は当主飯塚博道氏によりこの生家も立派に繁栄しています。

仏教では、禪が「無」をもつて生命の根源を極めようとするのに対し、密教は「有」の表現をもつて生命の根源を象徴しています。従つて有は宇宙生命の展開を表した真理であります。仏教精神の真髄は「色即是空有無即表裏顕密一如」であり、これが諸仏教の教えであると説かれています。日本の軍学兵法の奥義極地もまた「表裏陰陽有無一如」であり、仏教の教えと一体となっています。そして修

業の結果、活人円剣を悟り人の道を全うするもし修行という名目のために人間的な一切を犠牲にしたならば、流祖の生家の繁栄も香取の二十代の子孫の繁栄も、戦国の世を経て五百年余りの今日まで永く続くとはい到底考えられません。真の修業とは家庭を形成し子孫の正しい繁栄を祈り、自らは生涯隠することなく、つつがなく全うして初めて評価されるべきものです。個々の円満な家庭の集合がゆるぎなき国家を支える基盤となり、修業の目的が達成されるのであります。

家直公は「敵に勝つ者を上とし敵を討つ者は之に次ぐ」と教えています。現代にも適合する流祖の遺されたこれ等の教え、「平法」は、永遠の道であり、偉大な教えであるとしか例えようもありません。

如意山地福寺の参道の両側には椎の巨木が鬱蒼と繁り、清掃された境内は森閑として静まりかえっています。往時をしのんでそこにたたずむ時、自ら清楚な雰囲気になれた、目まぐるしく動く世相とは別世界のごとき感を覚えます。兵法や仏教の教えが時代の流れを超越し、不動のものとして一層強く印象づけられるのであります。私の神道流への入門の動機は、昭和の初期

（私の幼少年時代）で、国のため大君のために喜んで死ぬという教育を受けたのですが、本当に国のために笑って死ぬものだろうかと煩悶し、そういう心境に到達したくて十六歳の時、神道流師範・林弥左衛門先生に入門致しました。それから四十年という年月が経ってしまいましたが、近頃の世相は新しさを追いつくために、古い良いものを加速度にかも無自覚に失いつつあるのが現実であります。我々は精神的にも古き良いものを毎日の生活に意義づけたいと思います。

日本の武術は古い時代から武家文化として歴史と共に歩んできました。三世紀頃の古墳時代、豪族と豪族との争いから大和朝廷の日本統一があり、その後にもみられる波瀾万丈の群雄達の栄枯盛衰、今日に至るまでの幾多の

曲折と永い年月を経て磨きぬかれた貴重な日本民族の伝統である武家文化の保存に、微力ではあります。私が生涯をかけたかと思っております。

